

てんかんと妊娠



**てんかんを持っていても、薬を内服していても、妊娠を諦める必要はありません
計画的な妊娠をしましょう
そのために主治医に早めに相談してください**

大発作や転倒を伴う発作が起こらないように、最小限の容量かつ単剤での治療が推奨されます。妊娠中のてんかん発作の頻度は、50%の人では変わらず、25%の人では増加、残り25%の人では減少するといわれています。

勝手に薬をやめてはいけません。大発作が起きて命に関わる可能性があります。内服に不安があれば主治医に相談して、勝手に飲むのを止めることだけは絶対に避けてください。

奇形発生率について



てんかんをもたない女性の通常の出産で2~5%、妊娠初期にてんかんの薬を内服して出産したときは約2倍程度といわれますが、最近の抗てんかん薬では奇形率が通常と変わらないお薬もあります。妊娠初期の赤ちゃんの臓器ができる時期の抗てんかん薬の種類と量がとても大切です。薬が体内に蓄積して将来の妊娠や赤ちゃんに影響するということはないので、妊娠の予定がない時は安心して内服して構いません。

妊娠と抗てんかん薬のコントロール

